

唾液を用いたインフルエンザ検査について

大学院医歯学総合研究科微生物学分野

医療環境安全部感染制御部門

西 順一郎

- 1) 鹿児島大学大学院理工学研究科化学生命・化学工学専攻の隅田泰生教授研究室において開発された新たな高感度ウイルス検出法です。
- 2) インフルエンザウイルスとの結合力が強い糖鎖を固定化した金ナノ粒子 (SGNP) で検体中のウイルスを処理し、遠心分離で濃縮、その後リアルタイム RT-PCR 法を行います。
- 3) これまでの RT-PCR 法の 1000 倍程度感度が優れており、唾液中の同ウイルス検出が可能です。
- 4) 発症初期には、免疫クロマト法による迅速検査は陰性になることがあります、唾液検査では検出できる場合がありますので、検査をお勧めします。
- 5) 検体は理工学研究科の隅田研究室へ送付して測定するため、結果判明まで 1～2 日程度要します。
- 6) 結果については、勤務中には直接または自宅待機中の場合はリスクマネージャーを通じて連絡いたします。
- 7) 本検査による臨床研究は、鹿児島大学病院臨床研究倫理委員会の承認を受けています。
承認番号 28-204
研究代表者 微生物学分野 西 順一郎